

H28 学校評価(自己評価)

1 評価の方法

「A-そう思う」を4点、「B-ややそう思う」を3点、「C-あまりそう思わない」を2点、「D-そう思わない」を1点、「E-わからない」を0点とし、その合計を回答者で割り、平均点として示した。なお、「E-わからない」については、職種によって判断できないことが生じるので、この項を設定した。「E」の回答数は、回答者数から除いて処理した。

回答者数 30名

2 総括

4段階評定(平均点)で3点以上の場合は、基本的には良好な評価を得られたと判断し、項目を検討した。本年度は全校項目で、おおむね良好であったといえる。ただし、平均点が3点に近い項目については、意識して取り組むことが今後とも必要と考えている。また、昨年度のデータと比較し、Rank(全30項目の平均点を高い順に並べたもの)を比較した。差が大きい項目について検討することとした。これらの項目については、生徒用アンケート、保護者用アンケートの結果を参考に分析を進めて、改善の手立てをつくり、来年度での向上を図りたい。また、意見が寄せられた項目については、より良い学校運営がなされるよう改善を図る。

3 評価結果および考察と改善の手立て

項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	回答者数	4段階評定	Rank	前年評定	前年Rank	Rank比較	生徒	保護者	意見	
1 学校教育目標に関する事	①教育目標	1 学校教育目標や重点目標が、社会の変化や地域の特色・生徒の実態に即応したものになっている。	13	15	2	0	0	30	3.4	7	3.8	5	-2				・ネット社会を生きていく生徒に対して善悪の判断がつけられることを目標にするような言葉も必要かと思えます。
		43.3	50.0	6.7	0.0	0.0											
	2 職員の共通理解のもと、学校教育目標などを踏まえた教育計画が立てられ、それを達成するための教育活動を行っている。	11	16	3	0	0	30	3.3	17	3.4	14	-3	3.2	3.1		・保護者、生徒の理解度が少ない感じを受けます。 ・職員の共通理解の差があったり、達成するための教育活動が生徒自らの活動や重いが少ない。	
36.7	53.3	10.0	0.0	0.0													
考察		肯定的な評価が多かった。学校教育目標は生徒の実態に即応し、継続されている学校教育目標である。各自が意識をもち、今年度の重点目標を踏まえて教育活動にあたりたい。校内研と関連付けをもち、目標達成のための実践として積み上げたい。生徒や保護者に、より周知を図りたい。															

項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	回答者数	4段階評定	Rank	前年評定	前年Rank	Rank比較	生徒	保護者	意見	
2 学校経営に関する事	②教育課程管理	3 各教科の指導計画・評価計画が適切に作成され、授業時数が確保されている。	11	16	2	0	1	30	3.3	12	2.6	28	16				・数年前より改善していると思われるが、1年終わってみなければわからない。 ・確保されていると思う。
		37.9	55.2	6.9	0.0	3.3											
	4 道徳・学活・総合の授業時数が確保され、それぞれの目標・指導計画に応じて実施している。	8	16	5	0	1	30	3.1	27	2.1	30	3				・行事に合わせてやっている。 ・充実した総合の時間が達成されている。(計画に沿って)	
27.6	55.2	17.2	0.0	3.3													
考察		昨年度からの見直しにより大幅に改善できている。道徳・学活・総合(特に、道徳)の授業時数を確保し、学校行事等の特別活動に費やす時間との関連と調和を図っていきたい。改善の手立てをつくり対応を図りたい。															
改善の手立て		・各授業時数は、昨年度に比べて確保されているので、このままの教育課程を継続する。指導内容を含めた各領域の年間計画については、本校の平成28年度教育課程に示されている。計画が確実に実施されているのかについて、評価を実施し、来年度教育課程に生かすよう、各担当が計画づくりを進める。 ・行事の対応に若干授業時数が割かれている傾向がある。行事への対応を見据えて、各領域の計画を見直す。総合、学活、道徳の時間の時数確保と、関連ある計画づくりに速やかに対応し、来年度教育課程に生かす。															

項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	回答者数	4段階評定	Rank	前年評定	前年Rank	Rank比較	生徒	保護者	意見	
③学校運営組織	5	学校運営にふさわしい校務分掌(組織や個人)がなされ、それぞれ適切に機能している。	12	14	4	0	0	30	3.3	15	3.3	16	1				
		40.0	46.7	13.3	0.0	0.0											
	6	教職員が相互理解や信頼関係を深め、協働体制で校務や教育活動などに当たっている。	7	17	6	0	0	30	3.0	28	3.7	8	-20				・各取り組みの活動はよく行われているが、共通理解という点に不安がある。
23.3	56.7	20.0	0.0	0.0													

2 学校経営に関すること	7	管理職・教職員・学年・各分掌などで、報告・連絡・相談・確認が学校全体として機能している。	11	14	5	0	0	30	3.2	24	3.7	10	-14					<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会で出た話を各学年で共有するため教務内にも伝達してもらいたい。 ・運営会議で確認されたことがおいてこないことがあった。 ・時折不徹底の時がある。学年間のみ
			36.7	46.7	16.7	0.0	0.0											
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・職員体制としての相互理解や信頼関係を深めながら協働体制で校務にあたることの評価が下がっている。報告・連絡・相談・確認が機能しているとしている評価が低い。特に、運営会議などの内容が伝わらないなどの意見があった。会議時間の短縮および多忙化の解消を含めて、学校全体が機能する教育活動に当たりたい。改善の手立てを検討したい。 																	
改善の手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・会議時間の短縮に向けては、運営委員会での事前検討、前日までの資料配布によりかなりの成果を残している。しかしながら、まだ、運営委員会への提案がされない担当があった。会議の内容について事前検討の上で会議を進めたい。 ・運営委員会、生徒指導部会、不登校対策委員会などの情報が学年職員に速やかに伝わるように学年内で工夫をする。全体で確認したい内容については、必ず職員会議で行う。本年度は、職員会議に生徒指導関係、不登校生徒指導関係、特別支援関係などで提案されている。ただ、職員会議は、ほぼ1か月に1度程度なので即時性がないだけに学年での取り組みを進めたい。 ・報告、連絡、相談、確認が速やかに、正確にできるよう職員体制を整えたい。また、相談しやすい職場づくりとして、管理職を含めメンタルヘルスに取り組む。 																	

項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	回答人数	4段階評価	Rank	前年評価	前年Rank	Rank比較	生徒	保護者	意見	
2 学校経営に関すること	④安全管理	8 教職員が、生活安全・防災・防犯・情報管理などに危機管理意識を持ち、マニュアル等が整備され、適切に点検・管理を行っている。	11	17	2	0	0	30	3.3	13	3.6	11	-2				<ul style="list-style-type: none"> ・管理職による校内巡視が見られないので危機管理としてぜひしていただきたい。
			36.7	56.7	6.7	0.0	0.0										
	9 防災計画により大規模地震災害や火災発生時の緊急体制が整備され、避難訓練等防災教育が適切に実施されている。	13	14	3	0	0	30	3.3	10	3.8	5	-5	3.6	3.3			<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身に目標を意識させ、反省させることで意識を高めている。 ・休み時間の避難訓練は、とても訓練しづらい。 ・逃げ遅れる体験を子どもにさせることは適切か？
		43.3	46.7	10.0	0.0	0.0											
⑤保健管理	10 健康診断・心身の健康相談の他健康教育指導を行い、生徒の健康管理能力の育成を図っている。	16	11	3	0	0	30	3.4	5	4.0	1	-4					<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生徒の健康状態を共通理解できている。 ・もっと指導に入れると思う。努力が必要。
		53.3	36.7	10.0	0.0	0.0											
11 学校・家庭・地域が連携した健康・安全と食教育の推進に努めている。	18	10	2	0	0	30	3.5	3	3.8	4	1	3.6	3.4			<ul style="list-style-type: none"> ・食育は充実していると思われる。 	
	60.0	33.3	6.7	0.0	0.0												
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね肯定的な評価である。今後もこのような取組を進め、生徒・職員とも意識向上を高めていきたい。 																

項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	回答人数	4段階評価	Rank	前年評価	前年Rank	Rank比較	生徒	保護者	意見	
2 学校経営に関すること	⑥特別支援教育	12 教職員の共通理解のもとで特別支援教育の体制が整えられ、計画的、効果的な指導を行っている。	13	14	3	0	0	30	3.3	10	3.2	19	9				<ul style="list-style-type: none"> ・私事ですが、免許もなく英語を指導するのは大変です。
			43.3	46.7	10.0	0.0	0.0										
	13 専門機関などの連携を図り、特性や障害に応じた指導計画の作成や適切な指導を行っている。	12	14	4	0	0	30	3.3	15	3.0	24	9					<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導が大切である。
40.0		46.7	13.3	0.0	0.0												
⑦研修	14 教育課題に対応した校内研究が企画され、意欲的、積極的に取り組んでいる。	10	15	5	0	0	30	3.2	25	3.3	18	-7					
		33.3	50.0	16.7	0.0	0.0											
考察	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の体制、専門機関との連携を図り、特性や障害に応じた指導計画の作成には昨年度以上に評価が高くなった。一人ひとりのニーズに応えられるよう特別支援教育校内委員会の充実を図りたい。特に、普通学級に在籍しながら障害をもつ疑いのある生徒への対応は今後の取り組みが必要である。今年度と同様に、校内委員会の開催を計画的に開催したい。校内研究では、指導主事を招聘し、充実した授業研究ができたが、職員の校内研究への意欲的、積極的な取り組みとしては、評価が低くなっている。学力の向上は、授業づくりからして教師の授業力を高める研究体制を推進していきたい。 																

項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	回答人数	4段階 評価	Rank	前年 評価	前年 Rank	Rank 比較	生徒	保護者	意見	
3 学習指導に関すること	⑧学習指導	授業の中で、言語活動を推進し、互いが学び合う学習指導の工夫をして基礎的・基本的な内容の確実な習得に努めている。	11	17	1	0	1	30	3.3	9	3.0	24	15	3.2	3.2	・各教科で言語活動を効果的に授業に取り入れ工夫している。 ・各教科共通で言語活動や学びあいのシステムができあがるなどの教科もやり見直し、振り返りの積み重ねや一人一実践等での授業改善のなかで努力している。 ・各教科努力していると思う。 ・場の工夫、学習ノートの工夫など ・授業のねらいが明確になっていると授業での取り組みがしやすい。	・言語活動は、まだまだこれからという感じ。
			37.9	58.6	3.4	0.0	3.3										
	⑨進路指導	授業のねらいを意識させる中で、教材教具や展開の工夫を行い、基礎基本の定着と活用力を育てる授業方法の改善に努めている。	16	12	1	0	1	30	3.5	4	3.2	20	16	3.4	3.2	・4観点を基に評価し、指導に生かすとともに、生徒、保護者への説明をしている。 ・日頃の指導での取り組みが大切になっ	
			55.2	41.4	3.4	0.0	3.3										
⑨進路指導	観点別学習状況の評価・評定を明確にし、信頼性を確保し、説明責任が果たせるよう努めている。	13	15	1	0	1	30	3.4	6	3.1	21	15	3.4				
		44.8	51.7	3.4	0.0	3.3											
⑨進路指導	文化芸術活動や読書活動また、様々な体験活動を通して、豊かな感性を育てている。	12	13	4	0	1	30	3.3	14	3.1	22	8					・図書委員会からの取り組みや朝読の実施などされている。朝読の時間に担任も一緒に活動ができるようにしたい。 ・自然や遊び等のなかから育つ感受性が少ない分、より多くの体験を持たせていかなければ感性は育っていかないと感じる。
		41.4	44.8	13.8	0.0	3.3											
考察		・昨年度の評価より、かなり評価が高くなっている。見直しと振り返りのできる授業づくりとして実践している成果と考えられる。言語活動を推進しながら、思考力・判断力を高める授業づくりをさらに進めていきたい。来年度も、この姿勢を継続して、生徒の学力向上に結びつけたい。 ・家庭学習の充実などにむける取り組みが、今後は必要である。授業づくりとともに、家庭学習の充実を図るための改善の手立てを検討したい。															
改善の手立て		・家庭学習の充実を図る取り組みとして、当面家庭学習のすすめのチェックが進むよう家庭に呼びかける(八のつく日のチェックの徹底を図る)。①学年便りによるチェックの徹底を知らせる。②八のつく日の帰りの会でのチェックを指示する徹底を図る。③八のつく日の緊急メールによるチェック徹底の指示を確認する。④二十九日には、用紙を回収し、チェック状況を確認する。 ・家庭学習の充実を図るための課題を学年内で検討する。実施状況を必ず確認する。してない生徒についての対応を学年ごとに考える。 ・家庭に帰ってから生活状況について課題点をあげて、指導を徹底する(3学期に、学級活動として、家庭学習の充実、読書指導などを必ず実施する)。															

項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	回答人数	4段階 評価	Rank	前年 評価	前年 Rank	Rank 比較	生徒	保護者	意見	
4 生徒指導に関すること	⑩生徒指導	生徒指導目標が設定され、生徒指導(いじめ・問題行動・不登校)の組織、分担などの実効的な生徒指導体制が整備されている。	11	16	3	0	0	30	3.3	17	3.9	2	-15			・課題のある生徒について必要な情報が共有され、共通理解のなかで指導できている。 ・常日頃から細かいことから目を付け、学年で共通理解が図られている。 ・学年としてはできていると思う。	
			36.7	53.3	10.0	0.0	0.0										
	⑩生徒指導	いじめ・問題行動や不登校の予防、早期発見や解決に向けて、全校体制で適切に指導に取り組んでいる。	9	19	2	0	0	30	3.2	20	3.7	7	-13	3.4		・担任がしっかりと把握し、学年、生指などに情報を伝え、指導を促すことが大切でしょう。→具体的な取り組みへ	
			30.0	63.3	6.7	0.0	0.0										
⑩生徒指導	生徒会活動や特別活動等を通して、生徒の自主性・主体性を育成し、自治的な望ましい集団活動の充実を図っている。	12	13	5	0	0	30	3.2	20	3.3	17	-3	3.5	3.5	・努力していると思う。	・もっと委員会活動(自治活動)を活発にするよ。 ・生徒会活動を行える時間が確保されていない。そのことから自治的な活動につなげることが難しい。	
		40.0	43.3	16.7	0.0	0.0											
⑩生徒指導	生徒一人一人の特性を理解した適切な指導・支援により生徒の自覚と自立を育成している。	9	18	3	0	0	30	3.2	23	3.1	23	0			・努力していると思う。 ・時間がかかることなどで放課後等指導や活動ができないのは仕方ない。	・生徒の自主性をどう育てるか、3年間を見通しての指導が大切。	
		30.0	60.0	10.0	0.0	0.0											

9	23	道徳・特別活動などで、聴きあい伝え合う人間関係づくりをもとに自分を生かし他に役立つ心の育成に取り組んでいる。	8	19	3	0	0	30	3.2	25	2.9	27	2	3.4	3.6	・道徳での話し合いや、特別活動での自分の役割意識させた活動を行えた。 ・外部講師等普段接することができない方々のお話を聴いたり体験などをする時間が持てた。	・研修の必要があると思う。 ・行事に追われることがある(意識の課題)。
			26.7	63.3	10.0	0.0	0.0										
考察		<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と同程度の評価がされている。生徒指導的な内容の早期発見、早期対応に向けてさらに、学校全体での統一した方向で進めていきたい。今後も継続して取り組みたい。 ・いじめや不登校の原因に関わり、発見が遅れたり、SNSを利用することへの指導に計画的に取り組む必要がある。 ・道徳・特別活動に関して授業の確保や充実が必要がある。 ・生徒指導について、改善の手立てを検討したい。 															
改善の手立て		<ul style="list-style-type: none"> ・本校は、いじめの早期発見のための手立てとして、生活ノートの利用と学期に1度程度のいじめアンケートの実施をあげて取り組んでいる。いじめアンケートほどではないにしても、記述によるアンケートを2か月に一度程度の実施となるように取り組む。 ・いじめの早期発見、早期対応にむけた取り組みを確認する。①生活ノートによる生徒の変化の見取り。②いじめアンケートの実施(目撃者の情報を大切に扱う)。③発見時からの連絡体制を確認する(学年生指、学年主任への連絡→管理職への連絡→相談→(いじめ対策委員会(緊急)の開催)→学年内への報告→管理職への報告または確認→必要があれば職員全体への報告) ・ネットを通してのトラブルを含めたいじめ防止対策としての学級活動を3学期に必ず実施する(学年集会での注意事項の指示ではなく、生徒全員が必ず自分の考えをまとめる授業として実施する)。 ・みんなのために活動する委員会活動を実践する。 															

項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	回答人数	4段階評価	Rank	前年評価	前年Rank	Rank比較	生徒	保護者	意見
5 保護者・地域社会との連携に関すること	24	生徒・保護者からの学校生活の悩みや進路などの相談を真剣に受け入れている。	20	8	1	0	0	29	3.7	1	3.7	9	8	3.5	3.2	・学年や関わりのある生徒についてはできている。
			69.0	27.6	3.4	0.0	0.0									
	25	保護者と連携して教育活動を進めるよう、HP・たより・電話・家庭訪問などで情報提供をしている。	14	13	3	0	0	30	3.4	8	3.6	13	5	3.6	3.5	・できるだけ連携を密にできている。 ・学校、学年、給食、図書、保健など様々なところから情報提供ができている。
			46.7	43.3	10.0	0.0	0.0									
26	地域の教育資源を活用した教育活動を推進している。	8	12	10	0	0	30	2.9	29	3.0	26	-3	3.3	・学年通信等で参加を呼びかけている。	・もっとする必要があると思うが、多忙で難しいか？	
		26.7	40.0	33.3	0.0	0.0										
27	道徳実践力を育て、保護者や地域社会と連携して、しなやかな心の育成を図っている。	5	17	6	1	0	29	2.9	30	2.5	29	-1	3.3	・福祉の時間や社会人講話など心を耕す活動ができた。	・連携はまだまだこれからではないか。 ・ゲストティーチャーとして活用を図る。	
		17.2	58.6	20.7	3.4	0.0										
考察		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の悩みや相談を真剣に受け入れているという教師側での評価はかなり高い。 ・本年度は、福祉のこころ醸成事業を受けて、地域の方々と連携し、しなやかな心の育成に努めてきた。また、1年生の校外学習での地域人材の活用、食農体験への地域の協力、2年生では福祉教育への講師依頼、3年生でのいのちの学習などへの地域社会との連携は図ってきている。さらに、部活動への外部講師の依頼、あけぼのとの交流など地域との連携にかなり努めている。教師の地域との連携に対する意識を高めて取り組む必要がある。 ・道徳実践力の育成には、教師の評価は低い。道徳の授業時数の確保はもちろん道徳実践力の向上を図る授業づくりを進めたい。改善の手立てを検討したい。 														
改善の手立て		<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材の活用はかなり実施されて効果的な活用が図れている。今後も計画的に継続して取り組んでいきたい。当面、3学期には、1年道徳にゲストティーチャーを各学級ごとに要請して授業を実施する。 ・道徳主任を中心にして次の内容を確認する。①教育課程の進捗状況を学年道徳担当者に確認し、実施可能な年間計画を作成する。特に、特別な教科道徳として対応ができる計画を作成する。②年間計画に示されている題目および教材についての確認を行い、「道徳実践集」として共通利用できる体制をつくる。 														

項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	回答人数	4段階評価	Rank	前年評価	前年Rank	Rank比較	生徒	保護者	意見
6 施設・設備に関すること	28	学校施設設備は、安全な生活環境やさわしい学習環境として整備されている。	19	9	2	0	0	30	3.6	2	3.9	3	1	3.3	3.3	・必要以上に整備されている。とてもうるおっているところも。
			63.3	30.0	6.7	0.0	0.0									
29	教育活動に必要な設備や教科備品・部活動備品など、整備・充実している。	12	12	5	0	1	30	3.2	19	3.6	12	-7	3.3	3.3	・予算は多くない。 ・部活動では、不足しているものがある。	
		41.4	41.4	17.2	0.0	3.3										
考察		<ul style="list-style-type: none"> ・かなりの学習環境が整えられていると評価されている。恵まれた学習環境を生かした教育活動を進めていきたい。 ・予算的に不足や偏りがないように取り組んでいきたい。 														

項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	回答 人数	4段階 評定	Rank	前年 評定	前年 Rank	Rank 比較	生徒	保護者	意見
7 学校の特色に関すること	⑬学校の特色 30	生徒は、楽しく目標をもって学校生活を送っている。	8	19	2	0	1	30	3.2	22	3.4	14	-8	3.6	3.4	・多くは大丈夫だが、乗り越えられない生徒もいる。 ・一部の生徒への支援は継続的に必要である。
			27.6	65.5	6.9	0.0	3.3									
考察		・教師・生徒・保護者ともに「生徒は充実した楽しい学校生活を送っている」と感じている。生徒一人ひとりによるところが大きいようである。すべての生徒にとってそうあるように教育活動を進めていきたい。														

その他	<p>・教育課題とも関わるが、朝の時間の見直しを考えてほしい。朝学、朝読の時間に担任が行けない。朝の会後の時間が短く、欠席、遅刻、生徒の連絡などゆとりが欲しい。1校時の授業準備も含めて。</p> <p>・ある年度に3年生が1階になり、そのまま固定されていますが、給食指導とすれば、3年生が3階の方がスムーズだと思う。体力的にも、経験的にも3年生は準備が早い。1年生の、特に1学期の食べる時間をしっかり確保するために配慮して欲しい。そのためか、残量が多かった。片付けも迷いながらの様子でした。ワゴンを上上げる関係上、短縮のB日程(12:10～給食)設定は、調理時間の関係で厳しいので、配慮をして欲しい。</p> <p>・行事、日課に追われ子供達とゆっくり話す時間がない。特に、朝の会後の慌ただしさは顕著であり、急いで授業に向かう生徒、職員の姿が見られる。自尊の鐘は落ち着いて学校生活に入るという意味も込められているのでは？朝、落ち着いて会をして、健康状況を把握する、きちんと連絡事項を確認できるという時程にして欲しい。</p> <p>・素晴らしい校舎だが、少しずつ傷んできている。修理できるところは、小さいうちにしておいた方がよい。</p> <p>・生徒は意欲的に授業を受けており、活気のある授業が行われている。学力の定着という面からはまだまだである。学力の定着に必要な家庭学習を充実させるためには、自主学ノートなどを使い、粘り強く個に応じた指導を続けていく必要がある。</p>															
	改善の手立て	<p>・近くの学校では、始業8:10でありながら、4校時終了が12:45が通例である。本校と特色として、自尊の鐘の時間の確保とその後の放送による連絡事項があげられる。そこで、3学期には、8:20自尊の鐘、その後すぐに放送による連絡と変更し、朝の学活の時間を確保する。朝学習、朝読書が若干減るがこれに対応する。2月までの状況を確認し、来年度教育課程では、3学期の状態とするか、朝の学活15分の設定とするのかを他の活動との関連を考え判断する。</p> <p>・B日程の時間設定は、放課後の時間確保のためであるが、授業時間との関連で極力減らす体制で来年度教育課程を計画する。</p> <p>・三者懇談を授業時間4時間で実施することについては、授業時間確保および保護者への配慮を含めて検討し、休業日の設定で調整する。</p> <p>・教室の学年階の指定については、職員の意見をまとめ来年度開始までには決定する。</p> <p>・スケジュールワッチャーについては、現行のまま活用する。ただし、日程確認等は週案がもとであることを確認する。</p>														